

優良企業に学ぶ マニフェスト 管理術

都道府県への報告義務付けは、廃棄物適正処理、ひいては電子マニフェストの普及を一つの目的として進められているが、紙マニフェストが中心となる現場では、本制度の導入により、正確かつ迅速な管理が求められるようになってきている。本特集では、排出事業者から信頼される企業の処理術をおうとともに、トラブル時の対策をチェックする。

ミナト環境サービス

未処理と処理済みに分けて 日付順に管理

「トラック1台で産業廃棄物管理票（紙マニフェスト）が50枚に及ぶことがあります。たった1日でも相当量の枚数が行き交う。その日のうちに処理が終わらないのが悩み」と、負担の重さを語るのは、「ミナト環境サービス」（石川県金沢市）。プラスチックの資源化や再生利用、適正処理などを目的として金沢、中国に設立した中間処理業者だ。

ここ数年、自治体の廃プラスチック対策強化等により、排出事業者などからの処理依頼が多い状況が続いている。それに伴い紙マニフェストでの処理・管理件数が膨れあがってきた。一方で、排出事業者からの問い合わせ

（紛失や、監査での不備の指摘など）の度、保管場所から該当するマニフェストを探す手間と時間は看過しがたいレベルになってきていた。

引渡し期限のマニフェスト ファイリングに要注意

そんな折に、知り合いの業者からパソコンで一括管理する試作段階のソフトの提供を受けた。紙マニフェストの内容をパソコンに入力して管理するものだが、事業者名、許可番号、日付、産業廃棄物の種類や量などが一目瞭然でわかる優れたものだった。

「取引先から問い合わせが来ても、ボタン操作ひとつで瞬時に解答できる



ミナト環境サービス工場

ようになり、とりわけ現場で歓迎された」と馬場幸祐・専務は紙マニフェストにはない効果を実感した。

こうして、紙とパソコンの両方で処理・管理を行うようになって数年。同社においては、基本的に紙マニフェストの場合、未処理と処理済みに分けて日付順に管理している。毎回いろんな業者や番号、引き渡し期限のマニフェストが飛び交うので、ファイリングの時に間違わないよう気を付けなければならない。他方パソコンの場合は、紙マニフェストをもらったらすぐに入力するが、その際、打込みミスが生じないように注意を払う必要がある。どちらの処理も一長一短だが、それぞれの長所を生かしながら数人で慎重に作業を進めているという。

馬場氏は、効率化を図るためにいちばん大事なのは、「マニフェストを日々扱っている者の発想や思いつきに耳を傾けること」だと説く。そして「その声こそが、新たな機能性に優れた整理法・ソフト開発を生み出すヒントになる」という。

備考欄

- ① マニフェスト処理の様子。数名で慎重に作業する
- ② 約2ヶ月分のマニフェストが収められた棚

